

がん患者の臨床検査値を用いた新規予後予測法の探索

- ① 対象 2008 年以降に大阪大学医学部附属病院でがん治療を受け、死亡時まで、あるいは治療開始から最大 5 年後までの転帰を追跡できる患者
- ② 研究機関名 研究機関代表施設：大阪大学医学部附属病院
- ③ 目的 日常的に測定する臨床検査値を観察し、短期の予後予測を可能にする新しい手法を探索することを目的とする。
- ④ 方法 電子カルテデータベース、及び各部門システムより、がんの患者を対象とし、年齢、性別、身長、体重、診療科、がんの原発部位、Stage、手術部位、退院までの日数、化学療法、放射線療法、輸液・栄養療法、食事摂取割合、主な合併症、併用薬、副作用、転帰、臨床検査値 [Hb、Ht、CRP、AST、ALT、LDH、Alb、血清クレアチニン (Cr)、BUN、血清電解質、血算 (RBC、WBC、PLT、リンパ球割合) など] と死亡日を調査する。臨床検査値については、死亡時まで、あるいは治療開始から最大 5 年後までの推移を調査する。
- ⑤ 意義 生命予後を正確に予測することは、人生の最期を有意義に過ごすために大きな役割を果たす。現在、数種類の予後予測法があるが、これらは短くても死亡 3 週間前の予測しかできず、死亡 2 週間以内の予後を予測する方法はない。一方、死亡直前には、生死に関わる合併症が非特異的に出現し全身状態が悪化していくため、臨床検査値の大きな変動が起こっているのではないかと想像でき、これを用いることで予後を予測できる可能性がある。
- ⑥ 個人情報の取り扱い 調査に際し、患者識別情報を削除し別の番号の識別子でデータを管理し、対応表を厳重に保管する。
- ⑦ 問い合わせ先 大阪大学大学院薬学研究科附属実践薬学教育研究センター医療薬学教育研究ユニット 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-6 TEL : 06-6879-8250 FAX : 06-6879-8250